Symnapse

第1回作品展

11月11日(金)19時開演

(18時30分開場、21時終演予定)

トーキョーコンサーツ・ラボ

主催：**Symnapse**

令和4年度音楽学部若手音楽家・演奏家・研究家支援事業

Program

Toccata for vibraphone solo / 姫野七弦 (4分)
Vib. 宮垣輝希

攣(Spasm) —ヴィブラフォン独奏のための— / 湯地晃太郎 (9分)
Vib. 菊池幸太郎

Abuku-Abruption for vibraphone / 中村陽太 (4分)
Vib. 村瀬芽生

—休憩— (10分)

響戟(きょうげき) —アルトサクソフォンとヴィブラフォンのための— / 後藤元信 (11分)
Sax. 栗山弥奈美 / Vib. 飯田耀太

Le Grand... I for flute and vibraphone / 姫野七弦 (7分)
Fl. 中村淳 / Vib. 宮垣輝希

彩(いろ)めく影 —2本のフルート、クラリネット、ヴィブラフォンのための— / 湯地晃太郎 (5分)
Fl.1 太田怜花 / Fl.2 中村淳 / Cl. 石田理雄 / Vib. 菊池幸太郎 / Cond. 湯地晃太郎

Colorful Parasol for two flutes, clarinet and vibraphone / 湯地晃太郎 (6分)
Fl.1 太田怜花 / Fl.2 中村淳 / Cl. 石田理雄 / Vib. 菊池幸太郎 / Cond. 湯地晃太郎

Heterogenesis for clarinet and vibraphone / 中村陽太 (5分)
Cl. 石田理雄 / Vib. 村瀬芽生 / Cond. 中村陽太

うねりの集積I / Stratum for 4 instruments and vibraphone / 中村陽太 (13分)
Fl.1 太田怜花 / Fl.2 中村淳 / Cl. 石田理雄 / Sax. 栗山弥奈美 / Vib. 村瀬芽生 / Cond. 中村陽太

※フライヤー記載の「波間の白銀 —ヴィブラフォン独奏のための—」(後藤元信)は、
諸般の事情により誠に勝手ながら演奏取り止めとなりました。ご了承ください。

Notes

Symnapse第1回作品展へご来場いただきありがとうございます。
本団体は脳の伝達器官であるシナプスSynapseに「交響させる」意味のSymを掛け合わせ、現代の音楽と吹奏楽、聴衆、演奏家などをつなぎ、関わりを考えることを目的としています。これから先さまざまなところで広く聴かれてほしいと常々感じている同世代の作曲家に声をかけ、旗揚げが実現しました。
本演奏会ではヴィブラフォンを中心に、作曲家4名がそれぞれ書いた独奏曲・室内楽曲が初演されます。
ヴィブラフォンは今からちょうど100年ほど前に生まれた楽器で、その時代背景も相まって西洋音楽やジャズをはじめとした様々なシーンで用いられてきました。さまざまな時代やジャンルをつないできたこの楽器はSymnapseのコンセプトとも共鳴し、記念すべき第1回公演のテーマとしてこれ以上にふさわしい楽器はないのではないでしょうか。
また、演奏をお願いした8名の演奏家の方々は作曲陣と同世代であり、率直な相互のコミュニケーションを取ることでより良い演奏会になっているのではないかと思います。
それではどうぞお楽しみください。

Symnapse代表 姫野七弦

後藤元信 *GOTO Motonobu (2000-)*

響戟 ーアルトサクソフォンとヴィブラフォンのためのー
アルトサクソフォンとヴィブラフォンは、共通する背景(成立年代、ジャンル)をもちながらも、それぞれ独立した個性を有している楽器です。
本作ではこの2者の「関係性」に着目して、対立、調和、そしてその境界を探るように作曲しました。2つの楽器の生み出す、多様な関係、響きに注目してお聴きいただけますと幸いです。

姫野七弦 *HIMENO Natsuru (2000-)*

Toccata for vibraphone solo
無窮動とも言い換えられるような音づかいで、一定の緊張感・律動を保ちながらも与える印象はさまざまに変容する音楽を描いてみたいと思い作曲しました。
Toccataは大抵の場合オルガンやピアノなど指で奏する鍵盤楽器に用いられることばです。それをVibraphoneに対して用いるにあたって、マレットで奏するこの楽器ならではの表現を探究しました。
以前Marimbaで練習したとあるエチュードから着想を得た楽想と、それと同じパルスが刻まれ続けながらdolcissimoの指定がある楽想の2つによってできています。

Le Grand… I for flute and vibraphone
タイトルはこの楽曲の二つのコンセプト「十二音音列を主題とすること(ドデカフォニック→どでかい→Grand)」「偉大(Le Grand)な作曲家やその作品の一部から音列がつくられること」を端的に示しています。
※この作品はチラシ作成後にタイトルが「Vibrair」から変更となりました。

両作品とも演奏者である中村さん・宮垣くんの献身的なアドバイスによってより良い形でお披露目できることに、心より感謝申し上げます。

湯地晃太郎 *YUJI Kotaro (1997-)*

攣(Spasm)—ヴィブラフォン独奏のための—
攣(れん)は痙攣、攣縮など医学用語に用いられる字で、組織(血管や筋肉など)がひきつる現象を指します。この一年、私は公私問わず心がキュッと締め付けられるような経験を数多くし、その感情を「攣」という字で表される現象にリンクさせることで表現しました。糸をピンと張ったような無調・無拍節音楽の緊張感の中、不随意的に起こる小さなうごめきが様々に表情を変えながら発展していきます。

彩めく影—2本のフルート、クラリネット、ヴィブラフォンのための—
「もし影に色があったら…」という想像で書いた本作は、無彩色だった影が徐々に色彩を纏っていく様子を幻想的に表現しています。「ACDCisEFisFAsBGHEs」という細かく転調していくような十二音音列を採用し、音域やリズムの重なりを重視することで、おぼろげな音響そのものが色彩を変えながら展開されるような音楽になっています。第32回TIAA全日本作曲家コンクール室内楽部門第3位受賞曲。

Colorful Parasol for two flutes, clarinet and vibraphone
「雨の日は憂鬱だけど、傘がカラフルだったら楽しくなっちゃうよね！」というコンセプトの本作は、ポップさと現代的な和声やリズムとの融合を目指した明るく楽しい作品です。
「彩めく影」と編成は同じですが作曲で重視した点は全く異なり、よりリズミカルでメロディアスな展開、4度堆積和音の発展、複雑な拍子設定(11/8+10/8拍子、5パルスを1単位とした拍子等)が中心となります。

三作品それぞれ全く異なる世界観を持ち緊密なアンサンブルを要しますが、楽曲の意図を丁寧に読み込み共に楽曲を作り上げてくださった奏者の皆様に心より感謝申し上げます。

中村陽太 *NAKAMURA Yota (2002-)*

Abuku-Abruption for vibraphone
泡に対する働きかけ、それを反映する泡のふるまい・輪郭をジェスチャー的に表現する。Abruptionは(突然の)中止、剥離を意味する。泡に優しく触れ、形が一時的にゆがむ。泡を強く突くことで割れてしまう。泡が分裂して指の間を通り抜けていく。それらが泡の輪郭のように曖昧に現れ消えていく様子と、ボウイング奏法による幻想的な雰囲気を描いた。

Heterogenesis for clarinet and vibraphone
Heterogenesis(≒Metagenesis, Xenogenesis)とは、生活環において2つ以上の形態をとること・世代交代(生物学)、異なる過程によって同じ岩石が形成されること(岩石学)、目的をもった活動においてその過程で目的が絶えず変化していくこと(=Heterogenesis of ends, 心理学)である。この作品では夏の間での爆発的な無性生殖、それ以外の季節でのゆったりとした有性生殖という2つの生殖の形態をもつアブラムシ(アリマキ)を取り上げた。アリマキはアリに食料を供給し、アリはアリマキの世話をすることで共存していることが知られている。
言葉のもつ意味とアブラムシの生態にちなみ、テンポなしによって進行する部分と、二人の奏者が異なるテンポをもつ部分が交互に現れるという特殊な方法をとった。異なるものを奏しながらも支え合い、お互いの音を聞きながらの楽器を経由したコミュニケーションをお楽しみいただきたい。

うねりの集積I / Stratum for 4 instruments and vibraphone
ヴィブラフォンのモーターにより発生するうねりを音程差によるうなり、ヴィブラート、楽器の複雑な重なり、またヴィブラフォン自体の特殊な表現によって模倣する。地層(Stratum)はまさにうねりが集積してできているものの代表格だが、実際は平行に積み重なったものが地殻変動などによって傾いたり、大きな力が加わって断層や褶曲が生じることで今私達が見られる形になっている。変化の過程、断層と褶曲そのものの描写として、様々な奏法を用いた。

今回初演される曲には爆発的な増殖・分裂(Abuku~, Hetero~)、地質学や岩石にちなむ(Hetero~, うねり~)、線的な曲線を強調する・水に由来する(うねり~、Abuku~)という共通点がある。また、題名として選んだ言葉をバラエティに富んだ表現で描写することを目指したので、ご注目いただきたい。
今回難曲に挑んでくださる奏者の方々に敬意と感謝の意を表する。

Profile

後藤元信 *GOTO Motonobu*

2000年生まれ、埼玉県出身。
これまでに作曲を寄崎諒、林達也、小鍛冶邦隆、渡辺俊哉の各氏に師事。
2022年3月に東京藝術大学音楽学部作曲科を卒業、同時にフリーランスの作曲家として活動を始める。
現在は、「記憶と関連した反復、展開法の探求」や「移りゆくもの」などをメインテーマとした創作や、編曲(NHK-FM「リサイタル・パッシオ」など)、オーケストレーター(映画「竜とそばかすの姫」など)など、さまざまな分野で活動の幅を広げている。作曲の会「Shining」会長。リンク集:https://lit.link/gmcomp

姫野七弦 *HIMENO Natsuru*

2000年、福岡県生まれ、神奈川県出身。
管打楽器を用いた作品を中心に、さまざまな媒体のための創作活動やそのアシスタントを行なっている。吹奏楽やアンサンブル作品がネクサス音楽出版より出版されている。
第32回TIAA全日本作曲家コンクール室内楽部門審査員賞を受賞。これまでに作曲を大橋征人、井元透馬、鈴木純明、渡辺俊哉の各氏に師事。作曲の会「Shining」会員。横浜市立戸塚高等学校普通科音楽コース(マリンバ専攻)を経て、現在東京藝術大学音楽学部作曲科4年。
https://sites.google.com/view/himeno-site

中村陽太 *NAKAMURA Yota*

2002年生まれ。関西人。
現代作品を中心に作曲を行う。
小学生時代、出場した全ての紙飛行機大会で優勝。
サントリーホールサマーフェスティバル2022 公募形式によるワークショップにてイザベル・ムンドリー氏より講評を受ける。
これまでに作曲を大橋征人、藤川大晃、金子仁美の各氏に師事。作曲の会「Shining」会員。
横浜市立戸塚高等学校普通科一般コースを経て、現在東京藝術大学音楽学部作曲科作曲専攻2年。

湯地晃太郎 *YUJI Kotaro*

1997年生まれ、宮崎県出身。5歳よりピアノを、中学よりホルンを始める。
作曲は独学。近現代音楽を主軸としながら「多様なジャンルの音楽の融合」「調性音楽の可能性」「吹奏楽ならではの表現」を探求すべく活動を展開している。第32回TIAA全日本作曲コンクール室内楽部門3位入賞。第32回朝日作曲賞(吹奏楽)最終選考選出。室内楽や吹奏楽作品がネクサス音楽出版より出版されている。

飯田耀太 *IIDA Yota*

埼玉県所沢市出身。所沢高校を卒業後、東京藝術大学の学部三年次に在籍中。ソロもオケもできる演奏家を目指し日々奮闘中。
これまでに打楽器を新野将之、杉山智恵子、藤本隆文の各氏に師事。
打楽器アンサンブルグループ「Phonix Reflexion」メンバー。
2021年 西澤健一氏のオーケストラ版初演のオペラ「Manji」にオーケストラメンバーとして参加。
2022年 新野将之氏のパーカッションリサイタルにて共演。好評を博す。

菊池幸太郎 *KIKUCHI Kotaro*

幼少よりアンサンブルグループ”マリンバランド”に所属。静岡県立富士高校を経て現在、東京藝術大学器楽科二年次に在籍。
これまでに、十鳥勉、竹島悟史、藤本隆文、和田香織、各氏に師事。

宮垣輝希 *MIYAGAKI Teruki*

神奈川県横浜市出身。東京学芸大学附属高等学校を卒業。現在、東京藝術大学音楽学部 器楽科打楽器専攻2年次に在学中。
オーケストラや吹奏楽での演奏、ソロ・室内楽の演奏のほか、演奏会の企画に積極的に取り組んでいる。代表を務める「PALETTE Percussion Quartet」公演、ピアノと打楽器のデュオリサイタル「宮垣 輝希×堀谷 桜介 1st Concert」を学外で開催し、好評を博す。また、箏とマリンバをはじめ、弦楽とのアンサンブルや打楽器アンサンブル等さまざまな編成のための編曲に取り組む。
第15回日本管弦打楽器ソロ・ コンテスト打楽器の部高校生部門で金賞、東邦音楽大学学長賞受賞。第21 回日本ジュニア管打楽器コンクール・高校生コース・パーカッションの部で銀賞受賞。打楽器を、安藤芳広、 腰野真那、藤本隆文の各氏に師事。

村瀬芽生 *MURASE Mei*

12歳より打楽器をはじめる。東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て、現在、東京藝術大学音楽学部器楽科2年次に在籍。
これまでに打楽器を、百瀬和紀、杉山智恵子、藤本隆文、寺山朋子の各氏に師事。

中村淳 *NAKAMURA Jun*

4歳よりピアノ、13歳よりフルートをはじめる。
第2回市川市文化振興財団・即興オーディション『優秀賞』
一宮シティー管弦楽団とフルート協奏曲«ごしきひわ»を、少年のための現代音楽演奏講座にて川島素晴《フルート協奏曲》(室内楽版)を共演。
第14回現代音楽演奏コンクール《競楽ⅩⅣ》本選出場。
学内外問わず多くの新曲初演を行う。
今月末パリ音楽院即興科との交流事業に参加予定。
2021年度若い芽を育てる会 牛尾シズエ賞受賞。
2022山田貞夫音楽財団奨学生。
フルートを神田寛明の各氏に、フラウト・トラヴェルソを前田りり子に師事。
現在東京藝術大学大学院1年在籍中。

太田怜花 *OTA Reika*

2016年　全日本学生音楽コンクール　東京大会1位、全国大会2位
2017年　第38回草津夏期国際音楽アカデミーでKarl-Heinz Schützクラスを受講し選抜者による公開レッスンに参加
2019年　第40回草津夏期国際音楽アカデミーでKarl-Heinz Schützクラスを受講し選抜者によるスチューデントコンサートに出演
東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て、現在東京藝術大学音楽学部器楽科に在学。
これまでに、重見佳奈、金昌国、神田寛明、高木綾子の各氏に師事。

石田理雄 *ISHIDA Rio*

大阪府出身。
11歳からクラリネットを始める。
第20回日本ジュニア管打楽器コンクール高校生部門第3位。第24回KOBE国際音楽コンクール木管楽器B部門最優秀賞及び兵庫県教育長賞。第11回ヤング・クラリネッティストコンクール・ヤングアーティスト部門第2位。
これまでにクラリネットを藤井一男、青山秀直、三界秀実、中舘壮志に師事。室内楽を三界秀実、野原みどりに師事。
大阪府立夕陽丘高校音楽科を経て、現在東京藝術大学2年次在籍。

栗山弥奈美 *KURIYAMA Minami*

8歳よりサクソフォンを始める。富山県立呉羽高等学校普通科音楽コース卒業。第14回くらしき国際サクソフォーンコンクール第1位、第21回ジュニア管打楽器コンクール銀賞、第21回ジュニア・サクソフォーンコンクール第2位、第28回日本クラシック音楽コンクール1位2位なしの第3位、第34回市川市文化振興財団新人演奏家コンクール優秀賞。これまでにサクソフォンを貝沼拓実、須川展也、彦坂眞一郎、大石将紀、有村純親、林田祐和、田村真寛、本堂誠、杉田幸恵の各氏に、室内楽を彦坂眞一郎、松井宏幸、本堂誠の各氏に師事。現在、東京藝術大学音楽学部器楽科在籍。

チラシ・ロゴデザイン：真田将太朗
スタッフ：稲垣千佳
　　矢野耕我

Announcement

本日演奏された作品の楽譜を販売しております。
以下のQRコードよりアクセスできます。

第2回作品展

— クラリネットアンサンブル —

2023年9月22日(金)夜

ティアラこうとう小ホールにて

演奏者：都内音大生・卒業生有志(予定)

本日の演奏動画の公開・第2回作品展に関する情報等、
下のリンク先にてこれからも随時発信します。引き続きご注目ください。

Twitter	Instagram	YouTube
@Symnapse	SYMNAPSE_INFO	@Symnapse